

神奈川県内では、年々産後ケア事業を実施する助産所が増加しています。これまで利用者へのアンケート調査はありましたが、実施施設側の調査はありませんでした。そこで助産所部会では、産後ケアの現状を明らかにするために、産後ケア事業を実施している県内助産所にアンケート調査を行い、神奈川県母性衛生学会で発表しました。

調査の結果は、30歳以上の利用・初産婦の利用がそれぞれ8割を占め、多胎の利用もありました。また、産後1か月以内の利用が半数を占めていました。産後ケアを行う助産所側の良かった点として、利用者の育児不安が解消され満足度が高いこと、地域との連携が密に行えたことが挙げられました。一方で大変に感じる点として、産後の疲労が強い利用者へのケアに労力を要すること、予定利用数が不安定で助産師の人員確保や経営が難しいことが挙げられました。

産後ケアの利用は毎年増加しており、ニーズは高まっています。産後ケア事業を実施していない地域への利用拡大と、医療機関や自治体へ情報提供を図っていく必要があります。これからも助産所部会の一員として尽力していきたいと思っております。



公益社団法人日本助産師会 通常総会報告 未来戦略理事 布施 明美

平成30年5月25日、石川県金沢市にて公益社団法人日本助産師通常総会が開催されました。本年度のテーマは「愛・尊厳ある生〜いのちに寄り添うしなやかな助産師」でした。

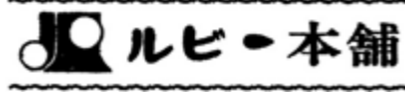
今年度の重点事業は 1. 女性特有ケアの充実とし、的確なリスク判別と安全な出産ケアシステムの確保、2. 産後育児ケアの充実とし、妊娠中から産後までの切れ目のない支援、3. 女性特有ケアの充実とし、生涯にわたる健康教育の強化、妊娠期に関わるケアの強化。以上3項目でした。特に2の産後育児ケアの充実については、世田谷区の産後ケアセンターのモデルケースに対する話題提供がありました。また、意見交換会では、診療報酬の中に乳腺炎重症化予防ケアが認められたことに対し、多数の助産師から意見が上がり、今後、病院との連携が重要な課題と考える会となりました。

事務局より
会員情報（氏名・住所・部会等）の変更は、日本助産師会ホームページ 会員専用ページから行ってください。Facebook 始めました。（公益社団法人神奈川県助産師会・神奈川県助産師会立とわ助産院）

編集後記
第10号のニュースレターが完成しました。ご意見を頂けましたら幸いです。（野村）



各種はらまき ニット生地
千葉県野田市木間ヶ瀬 3292
tel04-7198-1313 fax04-7198-6117



みらい

編集・発行 神奈川県助産師会 広報委員会 横浜市中区富士見町3-1 総合医療会館6階
Tel 045(262)4201 Fax 045(348)9020 (受付時間 月～金 9:00～17:00)
ホームページ <http://kanagawa-josanshi.com/> メール office@kanagawa-josanshi.com



会長挨拶

公益社団法人神奈川県助産師会 会長 村上明美

6月の定時社員総会において、引き続き神奈川県助産師会の会長をつとめさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

我が国の少子化は未だ進行し続け、子どもの命の重みは一層増しています。一方で、超高齢社会も進行の一途をたどり、健康寿命の延伸は大きな政策課題となっています。神奈川県も同様な人口構造の変化に直面しており、母子や女性に身近に寄り添う助産師として命の尊さを真摯に受け止め、生涯にわたる女性のヘルスプロモーションを積極的に展開していくことが期待されています。



母子や女性を取り巻く急速な社会変化に対応するために、本会は本年度よりさらなる飛躍へのチャレンジを開始します。役員に「未来戦略担当理事」を置き、将来に向けて母子や女性を守るための本会の活動構想を検討し、実施する「未来戦略委員会」を立ち上げました。中長期的な視座に立ち、他職種や行政、企業などと連携しながら、本会の事業を発展させていきます。これまで以上に部会や委員会が有機的につながり、公益事業に積極的に取り組んでいく所存です。



2018年度定時総会開催

総務理事 青島恵美子

2018年6月7日、県総合医療会館で「2018年度定時総会」を開催致しました。村上会長の挨拶に続き、県看護協会会長 花井恵子様、県看護連盟会長 奥本信子様、日本助産師会会長 山本詩子様より祝辞を賜りました。その後、永年活動感謝状、すくすく赤ちゃん献金表彰の贈呈式を行い、2つの施設（NPO法人こまちぷらす、県央里親会）にすくすく赤ちゃん献金が贈呈致されました。続いて議長に加藤千晶氏が総会成立を宣言し、2018年度事業計画、予算書報告、2017年度事業報告・収支決算報告及び監査報告の審議を行いました。今年は2年に1度の役員改選の年であり、新役員の審議を実施しました。すべての事項が賛成多数で承認されました。その後、中華街で懇親会を開催し、総会が開催できたことを喜び、今年度の活動にむけて会員の交流を図りました。

副会長 岡本登美子

2期目の就任です。何ができるか、何をやらなければいけないのか、改革、発展、連携、チームワーク、ディスカッションから発掘する起動力、行動力、助産師会が魅力ある活動ができるよう支援したいと思っています。



副会長 柳澤裕美

今年度より副会長となりました柳澤裕美です。前期までの保健指導部会長時、皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。

理事4期目、より全体を考える立場として、県と各地域の結び付きを深めることを課題とし、組織の強化や災害対策の推進に努めて参りたいと存じます。

未来戦略担当理事 布施明美

今年度、新しい取り組みとして未来戦略を設置し、担当になりました布施明美でございます。超高齢少子社会が加速する中、さまざまなライフサイクルの女性への切れ目のない支援が助産師の使命と考えます。すなわち職種連携をし、女性の健康を守り、産み育てることを価値あるものにし、また多様な女性への支援が求められています。神奈川県助産師会は、助産所の歴史と発展を軸に、未来を見据えた事業を具象化する必要があります。その使命を果たすために皆様と協力し、活動する所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。



助産所部会長 鈴木令佳

この度も助産所部会長を拝命しました。部会長として三期目に入ります。助産所の活動は分娩だけにとどまらず切れ目のない心あるケアとして、自治体からの要請を受け産後ケア事業は大きく注目されています。少子高齢化の現代だからこそ地域における助産ケアの可能性は大きく期待できるものがあると考えています。助産所の可能性を部会で考え知恵を出し合い、盛り上げていきたいと思っています。



保健指導部会長 森内幸美

今年度保健指導部会長に就任しました森内幸美です。近年、アウトリーチ型産後ケアや母乳育児支援など保健指導部会員の活動の場が広がっています。今後さらに助産師の力を活かせるよう会員の活動状況の把握に努め、会員の皆さまのご協力を頂きながら他部門と連携できるよう努めてまいります。

勤務部会長 二見智枝子

今期より勤務部会長に就任致しました。助産所部会、保健指導部会、教務部会の皆様と情報を共有し連携をとりながら会の活動が円滑に進むように尽力して参ります。会員の皆様ご協力及びご指導のほどよろしくお願いいたします。



財務理事 平野珠麻

引き続き、財務理事を担当させていただきます。前期は、諸先輩の後をただついていだけで精一杯でした。今期は、公益社団法人として神奈川県助産師会が円滑に活動出来るよう、微力ながら努めて参りたいと思います。宜しくお願い致します。



総務理事 青島恵美子・山田舞

昨年度に引き続き、総務は二人で担当いたします。今年度は、新たに未来戦略会議を設け、会の発展のために、助産師の幅広い活躍と切れ目のない支援を活性化できるように、会員の皆様のご協力のもと、円滑な運営に努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

事業統括理事 岩田美也子・吉越千鶴

この度、2018年度2019年度 事業統括理事として、就任致しました岩田と吉越です。

2016年度2017年度事業統括理事として、各研修会の企画運営と各公益事業の活動推進を行ってきましたが、二期目となり、更なる公益事業の展開を考えております。

会員の皆様のご協力のもと、会の発展に尽力したいと思います。

教務部会長 上田邦枝

教務部会長となりました昭和大学の上田邦枝と申します。看護師・助産師養成校の助産所実習受け入れに関して、システム管理とスムーズな調整を丁寧に行い、学生にとって心に残る実習になるよう環境調整をまいります。よろしくお願いいたします。



新理事紹介 & ご挨拶



会立助産院担当理事 山本年映

設立から9年を過ぎ10年目に入りました。未来に向けた助産院の形を模索しつつ、新たな気持ちで盛り上げていきたいと思っております。今後の会立助産院を委ねられる後輩が育つことがこれからの課題です。

